

令和8年度 千葉大学大学院教育学研究科 一般選抜学力検査問題
高度教職実践専攻 筆記試験

問題1 以下の文章を読み、(1)(2)(3)の問いに答えなさい。(40点)

著作権保護の観点から、公表していません

出典：Rodríguez, Humberto. "Seven essential components for teacher preparation programs for inclusion." *In Future Directions for Inclusive Teacher Education.*, ed. by Chris Forlin, Routledge, 2012. 102-103.

egalitarian…平等主義的 exceptions…例外 interactions…対話 collaboration…協働
marginalized…周縁化された, 疎外された emotional/behavioural problems
…情緒的・行動的な問題 giftedness…才能, 才能の豊かさ

- (1) 傍線部①を日本語に訳しなさい。
- (2) 傍線部②を日本語に訳しなさい。
- (3) 傍線部③の方法として、具体的に、どのような方法をあげることができるか。
あなたの学校や学級でできることを具体的に述べなさい。

【解答例】

解答例は公表しない

令和8年度 千葉大学大学院教育学研究科 一般選抜学力検査問題
高度教職実践専攻 筆記試験

問題2 次のA, Bのうち、いずれか一つを選び、答えなさい。なお、選択した問題の記号を解答欄に記入すること。(100点)

A. 現在、次期学習指導要領改訂に向けての審議が進められており、9月に公表された教育課程企画特別部会の『論点整理』には、「主体的・対話的で深い学びの実装」、「多様性の包摂」、「実現可能性の確保」の三つの方向性が示されている。

このことを踏まえ、今後の学校教育の現場で求められることについて、自身の考えを論じなさい。

B. 近年、不登校の児童生徒に対する支援に関して「学校に登校する」ことのみを目標にするのではなく、「将来の社会的自立」を目指した支援を行うことの重要性が国より示されている。

では、この目的を達成するために、学校や学級では具体的にどのような取り組みや関わりを行うことが求められるか。校種や発達段階による違いを踏まえた上で、できるだけ多角的に論じなさい。

【出題意図】

学級・学校経営やカリキュラムマネジメントなど、学校教育に係る研究に必要とされる基本的な語句の意味を理解し、かつ、簡潔に説明する力量の有無を評価する意図で出題している。

【解答例】

解答例は公表しない。

令和8年度 千葉大学大学院教育学研究科 一般選抜学力検査問題
高度教職実践専攻 筆記試験

問題3 次の(1)～(6)の語から三つを選び、それぞれの語について説明しなさい。なお、選択した語句の番号を解答欄に記入すること。(60点)

- (1) 教育格差
- (2) 生徒指導提要
- (3) いじめ重大事態
- (4) 情報活用能力の抜本的向上
- (5) トラウマインフォームドケア
- (6) アダプティブ・ラーニング

【出題意図】

学校教育臨床、スクールマネジメント、教育DXそれぞれの分野における基本的な用語や概念を適切に説明する力量の有無を評価するために出題した。

【解答例】

(1) 教育格差

生まれ育った家庭の経済状況や地域など、本人には選べない要因によって、受けられる教育の機会や質、結果に差が生じている状況を指す。我が国においても、世帯収入が高いほど学力テストの結果が高い傾向や、高等教育への進学率が高い傾向が確認されている。ただし、世界的にみると格差の度合いは相対的に小さいことが評価されてもいる。

(2) 生徒指導提要

小学校から高等学校段階までの生徒指導の理論、考え方や実際の指導方法等について、実践の際に教職員間や学校間で共通理解を図り、組織的・体系的な取組を進めるための基本書として作成されたものである。今日的な課題に対応していくため、基本的な考え方や取組の方向性等を再整理して改訂を行い、令和4年12月に公表した。

(3) いじめ重大事態

いじめ防止対策推進法第により規定された、次の場合を言う。

- ① いじめにより子どもの生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認められたとき
- ② いじめにより子どもが相当の期間学校を欠席すること余儀なくされた疑いがあると認められたとき

重大事態が生じた場合、学校やその設置者は第三者委員会等を設置し、詳細な調査を行うことが求められる。

(4) 情報活用能力の抜本的向上

中央教育審議会では、情報活用能力を探究的な学びを支える基盤と位置付け、その抜本的な向上を図る方針が示されている。小学校および中学校では、領域を設けたり科目を新設したりするなどして内容を拡充する方向で検討が進められている。情報技術を対象とし、AI等の特性理解や負の側面への対応を含め、小中高を通じた体系的な育成を目指すものである。

(5) トラウマインフォームドケア

全ての要支援者の問題や症状等の背景に潜在的なトラウマ（心的外傷）があることを前提とした関わりや支援を行う姿勢のこと。その際、トラウマに関する知識を持ち（Realize）、トラウマ症状のサインに気づき（Recognize）、気づきに基づき対応し（Respond）、再トラウマ化を防ぐような支援につなげていく（Resist re-traumatization）という4つのRが重要である。

(6) アダプティブ・ラーニング

AIやビッグデータ技術を活用し、学習者一人ひとりの理解度や学習履歴（学習ログ）に基づき、内容・難易度・学習順序に合わせた最適な教材や問題をリアルタイムに提供する教育手法。個別最適な学びを実現できる一方、学習データの扱い方や教師の適切な介入が重要な課題となる。